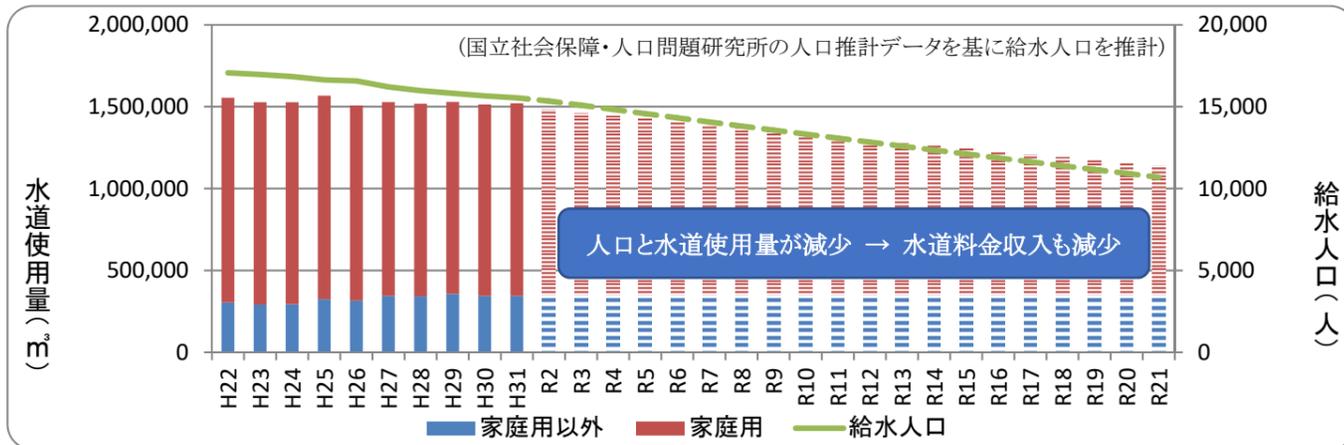


1. 目的

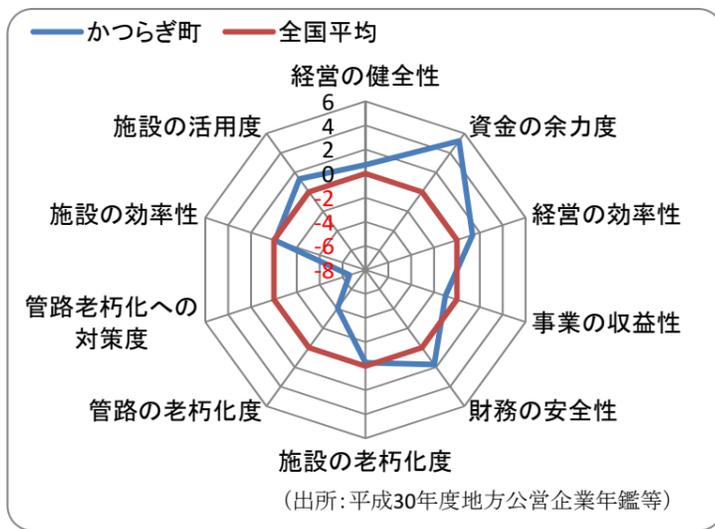
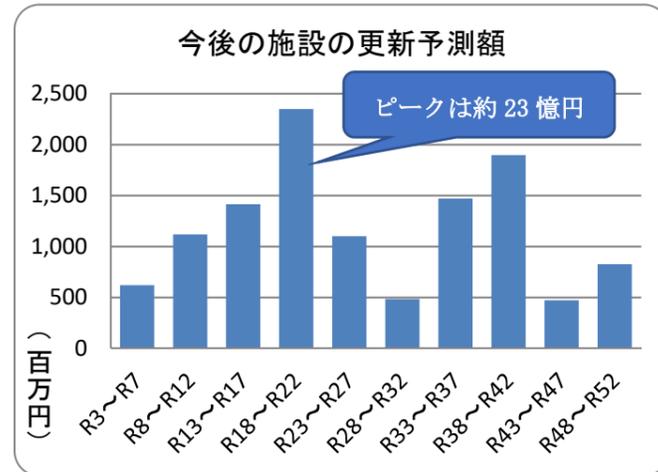
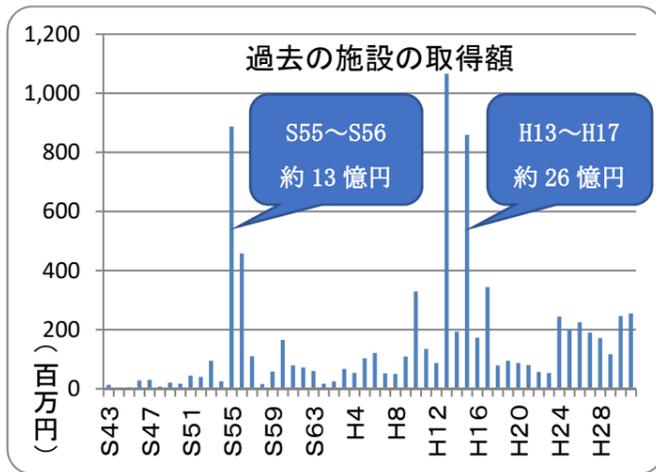
かつらぎ町（以下「本町」）水道事業の健全な経営のため、現状把握や将来予測を行うと共に、経営目標の設定により合理的な投資とその財源の確保を図り、水道水を将来にわたり安定して供給することを目的とします。

2. 現状と課題

本町の平成31年度の給水人口は15,541人、水道使用量は1,521千 $m^3$ でした。今後20年間で給水人口は約32%、水道使用量は約25%減少することが予測されます。



過去の施設の取得額のグラフと、今後の施設の更新予測額のグラフを次に示します。既に更新時期を迎えている施設が多くあり、また更新需要は増え続けるため、多額の資金が必要になります。



経営状況や課題を把握できると考えられる指標を抽出し、給水人口1万5千人以上3万人未満の全国平均値と本町の平成30年度決算値との比較により状況の把握と分析を行いました。

左のレーダーチャートは、全国平均を0とし、いずれの指標も外側に向かうほど（0より数値が大きいほど）良好であることを示します。

経営状況は健全に見えます。しかし、これは施設の老朽化対策への投資が少ないためとも考えられ、今後、施設更新等の投資の増加により費用が増加し、資金残高の減少及び企業債（借金）残高の増加が予測されます。

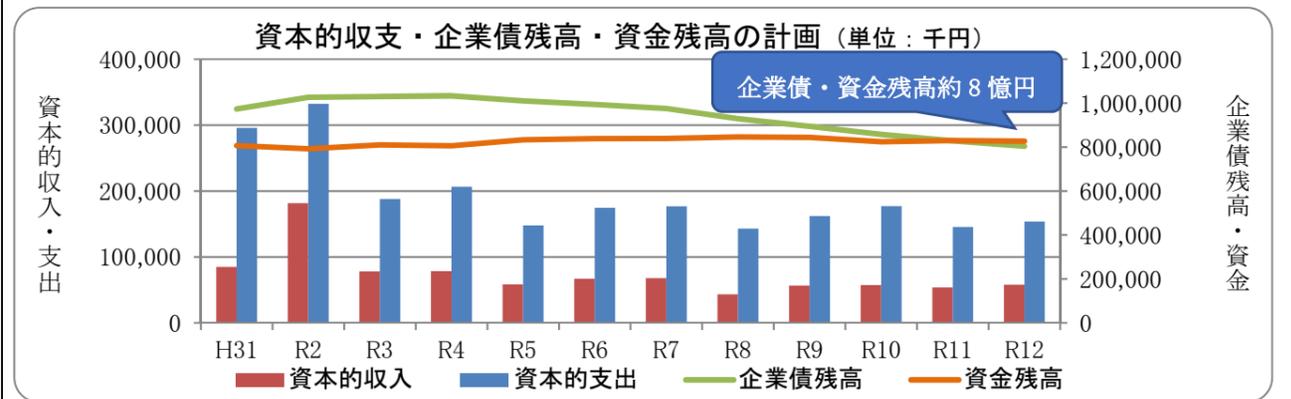
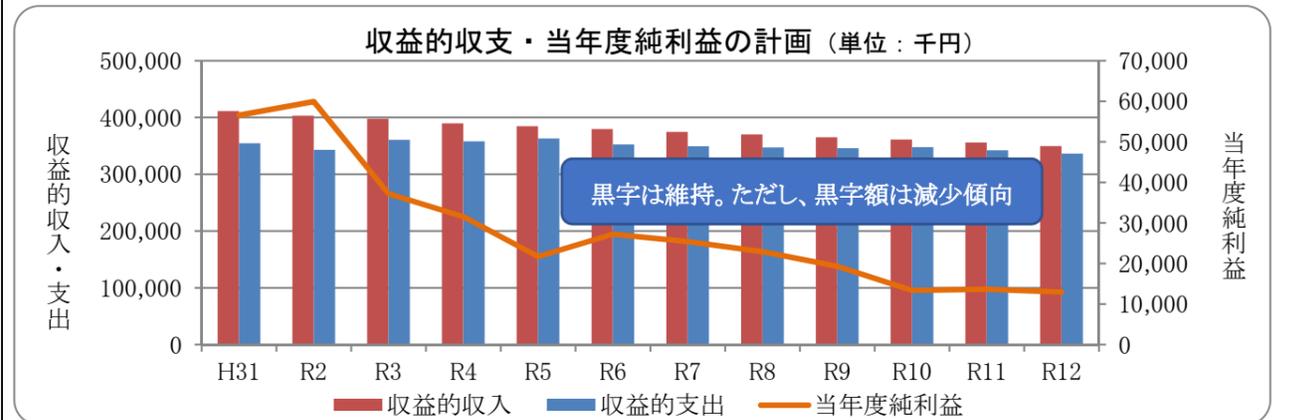
3. 投資財政計画

本経営戦略の計画期間中の主な投資の計画は、次のとおりとなります。

なお、下記以外に老朽化した水道管路の更新・耐震化や機械設備の更新を実施します。

主な実施項目	内容	前期投資(R3～R7)	後期投資(R8～R12)
妙寺配水池更新	配水池の耐震化	117百万円	前期で完了
配水池・中継ポンプ統廃合	施設のスリム化	後期で実施	118百万円
渋田高所新設拡張	高所地域の水圧不足を解消	30百万円	前期で完了

上記の投資計画に基づく収支計画は、次のとおりとなります。



4. 目標設定

項目	内容	平成31年度	目標	後期見込
経常収支比率	黒字の確保	116.39%	100%以上	105%
料金回収率	給水費用を給水収益で賄う	109.52%	100%以上	93%
企業債残高 対給水収益比率	収益規模に応じた安全な財務運用	344.38%	400%未満	345%
配水池の耐震化率(対容量)	被災時の水の確保	74.63%	89%	89%
重要給水拠点への水道管路の耐震化率(対延長)	被災時にも大型避難所、災害拠点病院へ給水	95.88%	97%	97%

5. 今後の取組み

項目	内容
老朽化施設の更新・耐震化	浄水場・配水池・重要水道管路は積極的に、末端施設は事後保全
施設の縮小と統廃合	減少が見込まれる水需要に応じた施設の見直し
広域化・共同化	他の団体と共に検討し、効率的な経営を模索
経営戦略の事後検証	PDC Aサイクル(計画・実施・検証・見直し)により、概ね5年毎に見直し